

自藤プロジェクト

石破農水大臣と食育・農業を熱く語り合ふ

幻の酒「白藤郷」の新酒をモンペ姿で贈呈！予定を大幅にオーバーし40分！

白藤復活の意味
白藤は江戸末期から昭和初期にかけて、酒用・米飯用として新潟で広く栽培されていた、すんぐりむつくりのコロコロした粒の小さな品種です。しかし酒米の高度精米化による大粒化、背丈が伸

種改良された換金性に優れたメジャーナ品種ですが、しかし、日本には存来の名もつかない「地酒」ならぬ「地米」が各地にありました。気候風土にあつた地米も米作の画一化、品質の規格化の波にさらわれ姿を消していました。

「米の品種で知っているものをあげて」と消費者に質問したら、「コシヒカリ」「あきたこまち」「きら397」と答えるのではないでしょうか。「ミルキークイーン」「ササニシキ」をあげたならば、なかなか米にこだわっている人かもしれません。

生産委員会

NPO法人
ミニケーションセンター
定価 100円(送料込)



白藤を復活するに当たり
生産から加工、消費に至
るまでのプロセスを、学
生・酒蔵・生産者が共に歩
むことを目指しました。

さなどから、いつしか絶滅してしまいました。「鳥またぎ米」といわれた新潟平野が泥沼の「潟」の時代に、農家から選ばれ生き延びた米です。言い換えるならば厳しい栽培環境の中での在野の農家が育てた大切な地域資源が白藤です。この時代は酒用・米飯用の区別がなかつたように、農家は生産するだけ、消費者は食べるだけの分業社会ではなく、渾然一体としています。

石破大臣に今年2月に仕込んだ白藤郷の新酒を贈呈することが目的だったので、5分程度の面談の予定でした。初めにマスコミ等を含めた写真撮りがあり、大臣室の大きいテーブルに着席しての面談が開始しました。大臣から学生に限界集落の話、米の消費に繋がる方法はないのかなど矢継ぎ早に質問をされました。

白藤プロジェクトでは中越大地震の被災地の山古志村訪問、震源地の川口町での台所交流、中越

消費者だけの分断をつなぎ合わせ現代風に進化させて商品開発をするのが白藤プロジェクトです。



A photograph showing two men in an office setting. The man on the left, wearing a dark suit and tie, is holding a small orange book or folder and looking down at it. The man on the right, wearing a grey suit, is standing next to him, also looking at the book. In the background, there is a whiteboard with a red seal on it, and a Japanese flag is visible on the right side.

はんぶん米の表示問題に 関心を



『裏面に続く』

大臣は「選択減反制度」についても言及されました。「自らの経営判断で生産調整するのか、しないのかを選択できない制度はおかしい」と語気を強められました。日本農業に経営者が育つ土壤がなく国等からのお仕着せされた生産調整ではなく、自らの経営の意思が欠落した制度の改革こそが農業再生への第一歩と確信されているように感じました。

大臣から表示の問題に
1枚にまとめてレポート
するよう指示を受けま
した。

沖地震の募金活動などを
行つていたので、今年卒業し、東京都の小学校で
栄養士として食育の道を
歩み始めた松本恭子さん
が代表して意見を述べま
した。

今回の訪問は、首相官邸の「立ち上がる農山漁村」に白藤プロジェクトとはんぶん米がダブル選定された式典の交流式で、大臣に白藤郷を試飲してもらつたことから始まり

今回の訪問は以下に掲載されています



石破茂オフィシャルブログ

日本の農業を立て直す

[http://ishiba-shigeru.cocolog-nifty.com
/blog/2009/06post-90e8.html](http://ishiba-shigeru.cocolog-nifty.com/blog/2009/06post-90e8.html)

6月1日のブログに掲載していただきました。

健康ビジネス連峰

6/9UP

<http://www.kenko-biz.jp/oshirase101/>

お知らせ・新規事業欄に掲載されています



マイコトキシン検査協会
<http://www.mycotoxin.or.jp/>

21年産より

フレコンパックでの出荷対応施設導入します！

「30kg袋が重くてかなわん」「秋作業が間に合わない」との声が寄せられる中、フレコン対応施設を整えました。併せて、フレコンパックの取扱いも開始します。



フレコンパック (ウェイ)

10枚梱包

(1.020kg) 1,700円/枚 税別

30kg紙検査袋

100枚梱包

75円/枚 税別

6月 26日(金)までにお申込ください

詳しくは同封の申込書をご覧ください。

農水省では機能性農産物を多額の税金を投入して育種・開発していきます。しかし、表示ができなければ流通にのることはありません。有益な国のがあります。お蔵入りしていることではありません。有益な国のがあります。お蔵入りしています。

又、食品以外でも健康新連峰の商品が過度な規制を受けて市場が縮小するばかりで産業育成にもなりません。ゴールデンウイーク前には、経済産業省関東問題について当社に調査で来社されました。新連峰の産業の育成の観点から、省庁を超えて石破大臣に関わっていただけだと願っています。

控え室で大臣との対面を待つ、緊張の面持ちの参加者。S.P.、秘書官たちはモンペに笠姿の学生にビックリ！

マイコトキシン検査協会をご存知ですか？

授東京家政大学教博士の中村信也先生は、厚労省出身。同省から依頼を受け、昨年から、(財)マイコトキン検査協会理事長を兼職しています。マイコトキンは昨年世間を騒がせた輸入米に付着した「カビ」。同検査協会では厚労省の登録検査機関としてカビを始め残す。留農薬検査などを、検査希望の方は新潟にお申し出ください。特価での検査を検討して頂けることがあります。

県内健康ビジネス企業のトップが参加

ス連峰を推進する産業労働観光部の呼びかけで、秋の「うおぬま会議」に向けて、新潟県健康ビジネス連峰を志向する民間の異業種を結集して、「健康ビジネス商工会(事務局案)」を設立して、(有)エコ・ライス新潟阿部社長は、「はんぶん米が東京都に納入が決まった後、厚労省からパッケージの表示について指摘があり困った」と実例を挙げて説明しました。健康ビジネスの最大の問題は「表示」につきます。各社、それぞれ苦い経験があり、消費者利益の観点からも改革が必要で、官民学らも改革が必要で、官民学あげて取り組むことが確認されました。



「新潟県の健康ビジネスを考える会」開催